

古事類苑

人部二十八

貴

貴ハ、タフトトシト云フ、賤ニ對スルノ稱ニシテ身分ノ高キモノヲ謂フナリ、我國ニテハ、至尊ヲ以テ第一ト爲シ、官位ノ高キモノ之ニ次グ、又德行高キガ爲ニ人ヨリ尊敬セララル、モノアリ、今其著キモノヲ擧グ、

名稱

〔類聚名義抄三〕貴居胃反、タフト、トシ、和、タカシ

〔伊呂波字類抄太〕人、事、尊、タフト、シ、宗、タツ、ト、フ、貴

〔倭訓栞前編十四〕たふとし 神代紀の歌にみゆ、貴をよめり、皇代紀に貴盛をたのしきとも、たふときともよめり、催馬樂のあなたふと、いふも、樂しき意也といへば、義通ふ成べし、万葉集には、たふときろともみへたり、常にたつとしともいへり、

〔倭訓栞中編十三〕たふどもの 弘法大師のおさな名を貴物といへり、北史に、夫人者天地之貴物と見ゆ、

貴例

〔古事記上〕於是洗左御目時、所成神名、天照大御神、次洗右御目時、所成神名、月讀命、次洗御鼻時、所成神名、建速須佐之男命、略、中、此時伊邪那岐命、大歡喜詔、吾者生生子而、於生終、得三貴子、略、下

〔古事記傳七〕三貴子は、書紀一書に、曰吾欲生御宙之珍子とありて、訓注に、珍此云子圖とありて、此の三柱大神成出坐し、神武卷にも、珍彦此云子祭昆古とあり、又大殿祭祝詞に、皇我宇都御子